

いちご一会国体特集

コースへはシャトルバス。一般観客用に千本松牧場に臨時駐車場。大会関係者は那須野が原公園から。

「いちご一会栃木国体、の女子ゴルフ競技(10月5日～7日)のタイムスケジュールの概略が、那須塩原市の実行委員会から示された。これによると、一般観覧者などは千本松臨時駐車場から、選手、役員を除く競技関係者は、那須野が原公園正面駐車場から、シャトルバスによる送迎体制が敷かれる。各県選手団の練習日の予約も本格化している。現段階の計画から国体のイメージを特集してみた。実行委員会では7月7日に開催される県社会人女子アマ選手権をプレ大会と見立てて、市職員の競技員を運営に参加させ運営練度を高めた。



【駐車場】

コースまで直接車で乗り入れられるのは、各都道府県の選手、役員、チームスタッフ(各都道府県に駐車券各2枚)、大会役員、フロント・レストラン、グリーンメンテ、ゴルフ場管理関係者、警備関係者、競技役員、中央競技団体の担当者らに限られる。約30人にのぼる市職員の競技会関係者、約50人にのぼるキャディ・フォアキャディは那須野が原公園駐車場に集合し、シャトルバスでコース入りする。

一般観覧者、報道関係者、各都道府県からの視察者、競技会補助員(ボランティア)は千本松牧場の北側に設置される臨時駐車場からシャトルバスで送迎することになる。

【スタート】

最も早く始動するのはコースチェックに当たる4人の競技役員で、副委員長2人とともに、午前4時にコースチェックを開始して万全を期す。市職員の競技係員は4時50分、キャディは5時50分までにコース入りして準備を整える。5時30分から選手、監督の入場を開始、レストランの朝食営業も始める。競技開始は午前7時で9時50分には、全選手のスタートが終了する予定。

募集が心配されたキャディ・フォアキャディだが、周辺ゴルフ場に協力をお願いしたり、塩カンの専属キャディを動員したりして、キャディだけで40数人を確保出来た。フォアキャディも必要人数を確保するメドが立っている。



【売店】

例年、国体会場には売店が設けられ、一般観覧者の昼食や遠来の選手のお土産用に地元のうまいモノや特産品の売店が設けられる。当初、クラブハウス前の屋根付き駐車場に設ける案が出ていたが、駐車場には少なく抑えても、150 台近い駐車スペースが必要となるため、中コースの1 番ホールティーグラウンド付近にテント張りの売店街を設置する計画で、おもてなしにも心遣いをみせる。

【お国なまり】

大会が迫るにつれて、各都道府県選手団からの練習ラウンド予約が増えている。9 月 30 日～10 月 2 日まで福井県、10 月 2 日は香川、兵庫、岡山県、10 月 3 日は香川、兵庫、岡山、福岡、佐賀県など。この前後はさらに練習日を入れる選手団も増えるとみられ、この時期のコースやクラブハウスでは全国のお国なまりが飛び交う、郷土色豊かなゴルフウィークになりそうだ。



塩原カントリークラブ！攻略編！！【中コース】 — 中里 鉄也プロ —

☆ 中コース 5 番 ☆



【コース解説】

やや打ち下ろして緩やかな右ドッグレックのミドルホール

【中里プロからのアドバイス】

- 1 打目は中 4 番同様、左 OB 右松林の為、真ん中の松に構えて打っていきたい。
- 2 打目はグリーンが縦長でやや打ち下ろしなので、距離感が難しい為短めのクラブで狙いたい。
- グリーンは手前からうけているが手前から転がる。



次回は、中コース 6 番を紹介します!!



那須の小天狗—小針春芳伝—⑩

井上 安正

真珠湾攻撃で太平洋戦争に入る前、プロの認定を受けた頃、小針春芳はある発想に行き当たった。「ボールに当たるのはクラブのヘッドだから、その動きが何よりも大切。ヘッドがボールをうまくとらえるには、構えた時と同じフェースの位置、フェースの向きで当たればいい。ヘッドを動かすのは、ボールに飛び出す勢いをつけたり、フェースを構えた向きに戻しやすくしたりするため、そうしなければ意味がない」と。海外ではボビー・ジョーンズが同じことを唱え、グランドスラムを達成したが、小針がそんなことを知る由もなかった。

小針がキャディーになって以来、根っこがついた棒きれで石ころを転がしたところから、反復練習の末につかんだ独自の発想だった。そう踏ん切りがついたら、球の性質を変えるのが楽になった。球の質とは、左右に曲げることや、弾道の高低のこと。基本は直角に構え、直角に当てること。ロフトを被せて構えて、被せて当てれば低くてランの出る球が出て、逆は高い球になる。スタンスを変えれば、ヘッドの軌道が変わるから、左右に曲げられる。

「要は開いて構えたら開いて当て、被せたものは被せて当てる。構えたままの状態にヘッドが戻ってくればいい」とわかった。小針はドライバーについて、「右手を離して打っている」と評されたことがあった。しかし、離してはいなかった。手のヒラがグリップから離れているだけで、指先でちゃんとグリップを握っていた。

「ワイは足も手首も関節がひどく硬かったから、林由郎のように手首を柔らかく使えず、手首の動きがぎこちなく、ヘッドもうまく操作出来なかった。それで、右手のヒラを離すようにして上げたら、人並みにコックが出来るようになった」

秒速四十五センチを超えるスピードで動くヘッドのフェースをアドレスと同じ所へ戻すには高い操作力がある。小針は練習量と発想力で、右手のヒラをあえて離すことが最良という結論に達した。「フェースを元に戻すと言っても、難しいことじゃない。神社で柏手を打つのに、空振りする人はいないだろう。手はキチンと元の位置に戻っている。コースに出てもお参りするような感覚で、フェースの元の位置と向きを覚えておけばいい。ミスの多い人は、覚えていないか、途中で忘れてしまうかだ。フェースはここに戻すと念じて振ってみればいい」と説いた。そこから先は、「いかに集中するか」ということになるのだろう。

小針は戦後しばらくして、那須ゴルフ倶楽部から何度も求められて専属プロに復帰したが、最初の一年はテスト期間にしてもらった。その間は那須ゴルフ倶楽部で毎日、ボールを打ち続けた。とくに、風雨の中で低い球を打つ練習をよくやった。「低い球は向かい風や横風に影響されにくいし、狭いホールや打ち下ろしで効果的で、「使い道が広いから」という。

トーナメントの三日あるいは四日の間には、強い雨の日も、風の日も必ず来る。そうした逆境を跳ね返せないと、勝てないと思った。とくに、日本オープンに勝ちたかった。練習は独学で自己流だったが、「人から教わると身につかない。自分で考え、自分の練習で覚えた自分流の技術じゃないといざという時に使えない」と信じていた。

低いボールはティーを低くして、フェースの下の方でたたけとレッスン書にはある。しかし、万人にとってそれがいいわけではない。人それぞれに体力、関節の柔軟性が違う。人それぞれの条件があって、その中で反復練習をして身につけたものでなければ、役には立たない。



「ワイの場合は、ティーを低くすればどうしても手加減をしてしまい、飛距離が落ちる。強風の時でも自分流の感覚で振れて、低い球にならないければ意味はない」。強い風の中で打って打ち抜いてたどりついたのは、「クラブを若干、短くして握るだけでいい」というのがその秘策だった。

小針は戦場から帰って、六年間、田畑を耕しクラブを握っていなかった。それにしても、恥ずかしくないプロ復帰が出来たが、その理由は「ドライバーが思い通りに打てた」ことだったという。「72ホールで、ティーショットがラフに入ったのが一、二回というのが普通だった。ゴルフでは狙ったところへ球を持って行くために、高度な技術がいる。グリーンを狙うショットではなおさら。球のライが同じ時がないから難しい。だが、それが出来なきゃ試合には勝てない」と確信し練習を重ねた。

関西の戸田藤一郎、宮本留吉、関東の浅見録藏らの古参、中村寅吉、小野光一ら新進気鋭の若手の中で、小針が飛距離で勝てるのは、一人もいなかった。彼らに勝つためには、ドライバーからパターまで、ボールの飛距離を自在に制御出来るようにならなければならない。それを身につけるために、小針が取り組んだのが、真っ暗闇の中での素振りだった。一人で黙々とクラブを振る。次第に、「ヘッドがボールに当たる時の速度を変えれば、飛び出すボールの勢いも距離も変わる」と感じてくる。飛距離を変えるには、ヘッドが動く速度を変えればいいという確信につながる。

打っている格好を自分で見ることは、もともと出来ないが、暗闇のなかでは視覚そのものが休む分、聴覚が鋭敏になり、フォローでヘッドが空気を切り裂く音とスピードに相関関係があることに気付く。「ビュッ」なら速く、鈍くなるにつれて遅くなる。まったくの独学でそこから先を極めた。クラブを振って、音の強さ、長さ、響きを聞き分ける。それを繰り返していると、「ビュッ」と鳴った時の腕の振り方を、右手の先が感覚として覚えてくる。「ボールを制御するには、スイングアークを変えるのではなく、ヘッドスピードを変える」のが肝心だとわかった。

しかし、こういう感覚は頭で考えることなく、練習で自分の体に覚え込ませることだ。「ヘッドの動きとフェースがボールに当たる向きで、球の性質を変える。これがワイの個性です。今は道具も情報もあふれるほどある。でも、自分流が作れない。自分で工夫して猛練習を重ねる。それが無い」と、今の若手への苦言も忘れなかった。



編集後記

ウイズコロナに最適なスポーツとして、ゴルフブームが再来する兆しが出てきたそう。東京周辺の練習場では時間待ちが日常になり始め、ゴルフショップにも若い男女の姿が目立ち始めたという。屋外で換気の心配はなく、ソーシャルディスタンスを常にとれるから、ウイズコロナにうってつけというわけだ。塩原カントリークラブでも空気感としては、その兆しになづけるところはあるとか。『いちご一会国体』の盛り上がりを機に、ブームにあやかいたいものだ。そういえば、南9番の枯れた赤松は撤去され、国体は現状のまま、ヤーデージブックで方向、距離を測ってもらうことになりそう。「あるがまま」がゴルフの奥義というから、それもまたよし。

井上安正

